

新・新潟市教育ビジョン策定推進本部 第1回本部会議 会議概要

【開催概要】

日時 令和5年11月30日（木）午後3時30分から午後5時

会場 ふるまち庁舎4階 401会議室（教育会議室1）

出席者 本部長・副本部長・本部員 ほか

【会議概要】

■ 1 開会

本部長あいさつ（井崎教育長）

- 3年におよぶ新型コロナウイルスの影響は大きく、今年度5類に移行したことにより1つの節目を迎えたとはいえ、人々の行動様式や価値観は大きく変わり、社会も大きく変化した。その変化に対して行政も柔軟に対応していかななくてはならない。
- 6月に「教育振興基本計画」という国が定める教育の一番大元の計画が閣議決定された。そこでは2040年以降の社会を見据えた上での教育の方向性が示されており、教育の大きな目的、コンセプトの1つとして「将来の社会をつくる担い手をどう育てていくか」ということが掲げられている。
- もう1つのコンセプトとして「日本社会に根差したウェルビーイング」がある。今までは「ウェルビーイング」というと子どもたちの自己肯定感を高めるであるとか、子どもたちが獲得するもの、獲得されるべきものとされていたが、そのほかにも他人への思いやりだとか、周りの人との関係性も含まれている中身として今回「ウェルビーイング」が謳われている。
- この2つのコンセプトに基づき新潟市の教育の施策を実行していかなければならない。しかし、この大きな考え方、あるいはコロナ禍における行動変容というものが、現行の教育ビジョンの中では全く考慮されていないに等しい。現行の教育ビジョンが平成18年に策定されて以降、このような時代の変遷もあった中で、今般、新たに教育ビジョンを策定することになった。
- 現行の教育ビジョンには大きく3本の目指す方向性が書かれており、1つは学校教育。もう1つは生涯学習。そしてもう1つは教育行政。しかし、先に話したように、学校教育は学校教育のためにあるわけではなく、これからの社会の担い手をつくっていく、社会をつくっていく、そのための教育だということ。大人になったら学びの必要はないということではなく、大人も学びの循環というものをつくり、社会のづくり手として参加していかなければいけない。
- 新たな教育ビジョンでは、学校や生涯学習などの分け方ではなく、生まれてから生涯にわたりどのように教育行政を展開していかなければいけないのかということ踏まえてつくっていききたい。
- それにあたっては、教育委員会だけでなく市全体をあげて、互惠関係を上手につくりながら教育行政を展開していく必要がある。それにより市民生活が向上していくところを目指していかなければならない。
- 教育は「不易」と「流行」と言われていて、変えてはいけないものもあれば、変えなくてはならないところもある。グローバルを叫ぶ一方で郷土愛も大切だ、というふうに言われているが、このようなことを二律背反ではなく、どうやって包含をしながら教育行政を展開していくかということ整理していくということで大変な作業になるが、一緒に教育ビジョンの策定を進めていきたい。

■ 2 説明・協議

(1) 資料に基づき事務局（教育総務課長）より説明。

○策定体制・策定方法について

- ・教育委員会の各所属長および関係する市長部局の所属長を構成員とする「策定推進本部」を設置するほか、各所属の補佐級を構成員とする策定プロジェクトチームをつくり、プロジェクトチームにおいて事務局の提案に対する意見や情報提供を行いながら内容の検討を進め、その案を推進本部に報告し、さらに意見や助言などをもらいながら修正を図っていく。
- ・プロジェクトチームでは、各所属の専門性や現場の視点、具体的な取組から事務局がつくる案に対し、その妥当性や整合性を検証し意見出しを行う。また、部局を超えた連携を図り、教育委員会内だけでなく全市的な計画づくりを行う。
- ・あわせて、市民参加として市民向けアンケートの実施や学校現場および子ども自身からの意見聴取も行い、計画に反映させていく。
- ・このほか、素案が出来上がった段階で、パブリックコメントを実施するほか、専門家からの意見を聴取するための有識者会議を設置する予定。

○基本構想（案）の内容について

- ・現行ビジョンの第4期実施計画では5つの重点施策を掲げ、各種の取組を推進してきた。その成果として、ICTを活用した学習活動が普及・充実したほか、「学・社・民の融合」のスローガンのもと地域と一体となった学校づくりが進んでいる。
- ・一方、課題としては、不登校の児童生徒の増加や少子高齢化にともなう人材不足などがある。それに加えて、人生100年時代の到来や、デジタル化の進展、多様性を重んじ共生社会の実現を目指す志向の高まりなど、複雑で変化の激しい社会情勢がある。
- ・このような中で、新教育ビジョンでは本市の教育が目指す人間像を設定し、その育成ための方向性や手段（政策や施策）を検討していく。
- ・計画の構成は現行ビジョンと同じく、目指す方向や目標を示した「基本構想」とそれを実現するための基本方針と施策を掲げる「基本計画」、「基本計画」を具体化する各種事業や取組を掲載する「実施計画」の3層構造にしたいと考えている。
- ・また、策定のコンセプトとして【人の一生涯を見通した教育ビジョン】を掲げ、学校のみならず、幅広い視点で新潟市民の生活が心身共に豊かになるような教育施策の充実を図る。また、市長部局とのさらなる連携を進める。

○策定スケジュールについて

- ・令和5年度は、主に基本構想・基本計画の素案作りに向けた検討を進め、令和6年度に入ってから、素案に対する意見聴取として有識者会議の設置やパブリックコメントの実施などを行い、市民意見を反映した修正を図っていく予定。
- ・あわせて、実施計画づくりを進め、年末年始のころにはそれぞれの成案の完成を目指す。

(2) 質疑

(本部員)

資料7の中で評価指標と書かれているが、これは基本計画の中に入るという解釈でよいのか。

また、教育ビジョンの計画期間は。実施計画の期間は何年か。

(教育総務課長)

成果指標には基本計画のところに入れる想定でいる。現行のビジョンでは60もの指標があり、新しいビジョンの策定にあたり指標を精査したい。

期間については検討中だが、1つの考え方として総合計画の計画期間が8年であるため、2年遅れになるが総合計画の動きとの連動とを考えると8年ということも考えられる。そのほかに、国が進めている「子ども計画」が5年間という動きもあり、それらの動きの関係性も考慮し、他の部局とも意見交換をしながら検討したい。

■ 3 連絡・その他

■ 4 閉会

副本部長あいさつ(本間教育次長)

- 総合計画が今年度からリニューアルされ、その興奮も冷めやらぬ中、また計画作りかと思われるかもしれないが、是非、積極的な協力をお願いしたい。
- 今後、プロジェクトチームは各所属の課長補佐が役割を担ってもらうが、所属内でも協力体制をお願いしたい。
- 本日の説明では、資料4の下から2つ目の●が肝要。プロジェクトチームにおいては、現場目線や専門家の目線で全体との整合性とか、そのようなところを見極め忌憚のない意見をもらいたい。
- 平成19年に教育総務課に係長としてきたとき、前年の平成18年に教育ビジョンが策定され、当時は「学・社・民の融合」という新しいキーワードのもとで勢いがあった。新しい課ができるなど「学・社・民」を組織全体で一生懸命にやっっていこうという勢いがあったのを思い出している。
- 今回はそれから更に進化させ、生まれてから一生涯の新潟市民を育む、というところをコンセプトにつくっていく。教育委員会だけでなく、関係部局と一体となって、策定された暁には、新たなビジョンのもと、勢いがあるような形で臨みたいと思う。